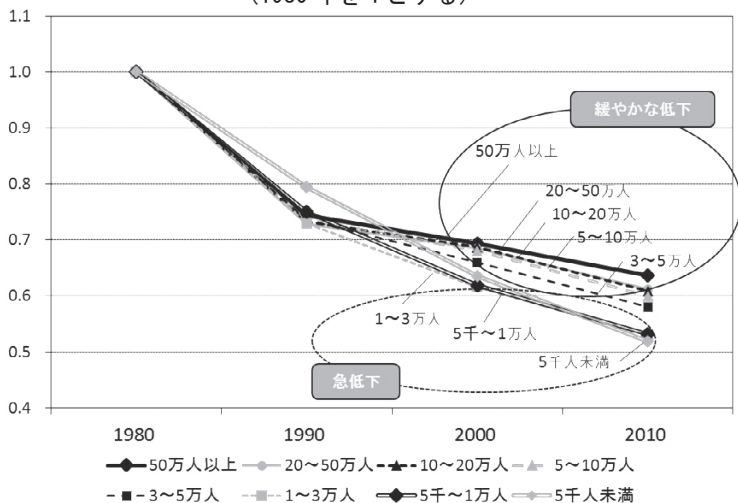


市区町村の人口規模別に人口指標（普通出生率）の推移を見てみると、1980年から1990年にかけては、いずれの市区町村も急激に低下した。それ以降は自治体の規模によってばらつきが生じている。人口50万人以上の規模の大きな自治体では、1990年以降の人口指標は比較的緩やかに低下しており、人口3～5万人、5～10万人規模で何とか経済を維持している街の場合、普通出生率の低下も緩和している様子が見られる。

3万人未満の自治体では、1980年から1990年の急低下と同程度の速度でそれ以降も低下しており厳しい状態が続いている。

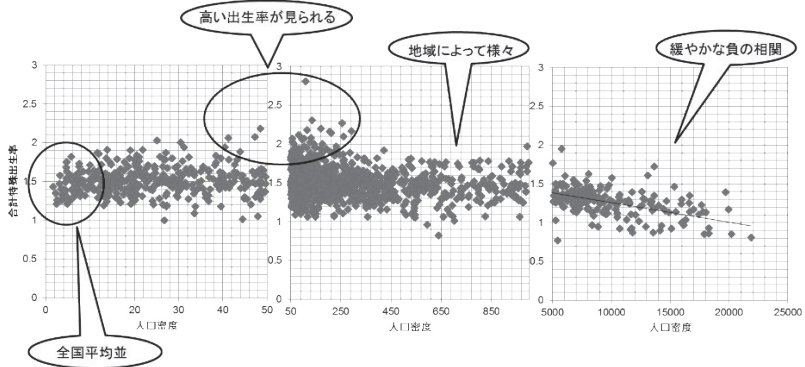
<図表 2-10-3 人口規模別 人口指標（普通出生率）の平均値の変化>  
(1980年を1とする)



●人口密度と合計特殊出生率の関係—人口密度が高い地域は合計特殊出生率が低い

市区町村単位で人口密度と合計特殊出生率の関係をみると、東京都区部などの人口稠密な地域では合計特殊出生率が低くなる傾向が強い。人口密度が中程度よりやや低位の地域では合計特殊出生率が高い地域が認められる。人口希薄な地域は合計特殊出生率について大きな値、小さな値をとることはないという傾向にある。

&lt;図表 2-10-4 人口密度と合計特殊出生率の関係&gt;



&lt;人口密度の低い市区町村&gt;

市区町村名	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	合計特殊 出生率
福島県檜枝岐村	1.6	1.43
北海道幌加内町	2.2	1.35
北海道占冠村	2.4	1.21
奈良県上北山村	2.5	1.26
長野県王滝村	3.1	1.47
北海道中川町	3.2	1.58
山梨県早川町	3.4	1.40
奈良県野迫川村	3.4	1.26
北海道音威子府村	3.6	1.26
北海道西興部村	3.7	1.33

&lt;人口密度の高い市区町村&gt;

市区町村名	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	合計特殊 出生率
東京都豊島区	21881.5	0.81
東京都中野区	20189.2	0.85
東京都荒川区	19931.0	1.17
東京都文京区	18269.3	0.93
東京都目黒区	18253.7	0.86
東京都墨田区	18007.7	1.13
東京都新宿区	17899.6	0.85
東京都台東区	17453.2	1.11
東京都板橋区	16656.0	1.14
東京都北区	16296.5	1.04

&lt;人口密度が中程度で、合計特殊出生率の高い市区町村&gt;

市区町村名	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	合計特殊 出生率
鹿児島県伊仙町	109.2	2.81
沖縄県久米島町	134.2	2.31
沖縄県宮古島市	254.4	2.27
沖縄県宜野座村	170.2	2.20
長崎県対馬市	48.5	2.18
鹿児島県徳之島町	115.3	2.18
沖縄県金武町	292.8	2.17
沖縄県石垣市	204.9	2.16
長崎県舌岐市	212.0	2.14
鹿児島県天城町	82.8	2.12

(備考) 厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」(平成20~24年)、総務省「国勢調査」、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」をもとに作成。